

青空機械新聞

2026年4月

発行
第34号

業界ニュースとトレンド紹介

インド製造業投資、3カ月で200億ドル

EV・半導体で設備需要拡大しています

インドの製造業投資が急拡大しています。2025年12月から2026年2月までの約3カ月間で、総額約200億ドル(約3.2兆円)規模の投資案件が相次いで発表されています。堅調な内需と政府によるインフラ投資、サプライチェーン再編の流れを背景に、同国の製造拠点としての存在感は一段と高まっています。マクロ環境も追い風となっています。2025年度の実質GDP成長率は**7%**台後半が見込まれており、製造業購買担当者指数(PMI)も拡張局面を維持しています。金融面では利下げやインフレの落ち着きにより、設備投資環境は改善しています。

分野別では、自動車・電気自動車(EV)関連の投資が引き続き活発です。例えば、Tata Motorsはグジャラート州でEVおよび電池生産能力の拡張に約11億ドルを投資すると発表しています。また、Hyundai Motor Indiaはタミルナドゥ州工場に約6.5億ドルを投じ、EV対応と輸出体制の強化を進めています。さらに、Maruti Suzukiは新工場の稼働に加え、約9億ドル規模の設備投資を行い、生産能力の拡充を図っています。これに伴い、マシニングセンタや自動化設備、電池関連装置の需要が拡大しています。

半導体・電子分野では大型案件が相次いでいます。Micron Technologyはグジャラート州で総額約27億ドル規模の半導体後工程拠点の建設を進めています。Foxconnも約15億ドル規模の投資を計画しており、電子機器生産能力の拡大を進めています。さらに、Tata Electronicsも半導体パッケージング分野で追加投資を発表しています。

今後は超精密加工機やクリーン対応設備、高精度測定機の



需要本格化が見込まれています。

航空宇宙・防衛分野でも投資が拡大しています。

Hindustan Aeronautics Limitedは約6億ドル規模の設備投資を決定しており、航空機およびエンジン部品の生産能力を強化しています。また、Tata Advanced Systemsも航空機構造部品の製造拡張を進めています。これにより、5軸加工機や難削材加工技術への需要が増加しています。

エネルギー・重工分野では、Siemens Energy Indiaが約5億ドル規模の投資を発表し、発電設備や送電機器の製造強化を進めています。Adani Groupも再生可能エネルギー関連で約12億ドル規模の投資を計画しており、大型設備需要が拡大しています。

こうした投資の内訳を見ると、自動車・EV分野が約31億ドル、半導体・電子分野が約78億ドルと最大規模を占めています。このほか、航空宇宙・防衛分野が約17億ドル、エネルギー・産業機械分野が約27億ドル、鉄鋼・金属分野が約28億ドル、工業団地などインフラ分野が約22億ドルとなっており、幅広い分野で設備投資が進んでいます。

一連の動きは、インド製造業が低コスト型から高付加価値型へ移行していることを示しています。設備選定においても価格重視から、生産性や精度、自動化、デジタル対応を重視する傾向が強まっています。

工作機械および周辺機器業界にとって、同国は有望市場です。CNC機、自動化設備、測定機器、半導体・EV関連装置など幅広い分野で需要拡大が見込まれています。北米や欧州に次ぐ戦略市場としての重要性は、今後一段と高まる見通しです。(AMTレポートより)

発行元 会社概要

会社名：株式会社青空機械 (あおぞらきかい)

代表者：青木 佑典(あおき ゆうすけ)

主な事業内容：工作機械販売

住所：新潟県新潟市東区中山4-4-13-3

TEL：070-8303-6632

FAX：050-3588-8241

Email：aoki@bsmt.co.jp

積層造形(3Dプリンタ)、「狭く深く」浸透

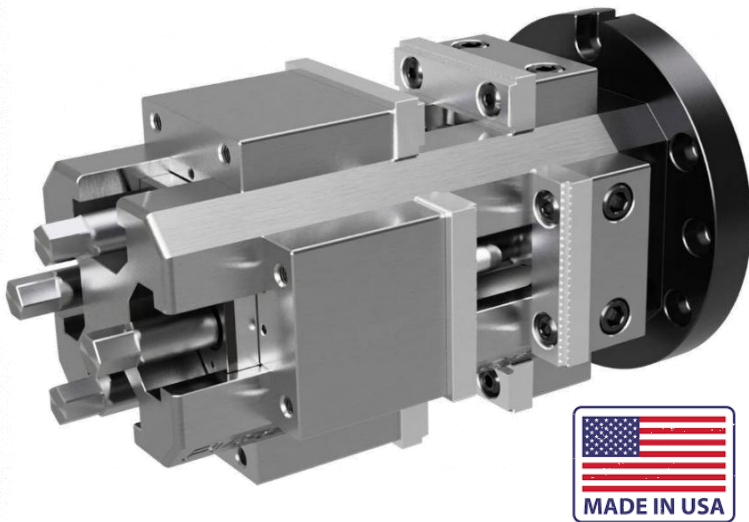
積層造形（AM）の産業利用において、「狭く深く」の導入が進んでおります。従来のように幅広い用途への展開ではなく、特定分野において集中的に活用され、製品設計と製造工程の双方で大きな変革をもたらしているのが特徴でございます。

代表例として、人工股関節の部品（骨盤側の受け皿部分）が挙げられます。従来は機械加工と表面処理を別工程で行っていましたが、積層造形では骨の成長を促す表面構造を一体で作ることが可能となり、工程の大幅な簡略化を実現しております。現在では、この分野における主流の製造方法となっております。一方で、こうした「適材適所」の特性は、積層造形の適用範囲を限定する側面もございます。すべての部品に適するわけではなく、

難加工材や複雑形状、工程集約といった条件が揃う用途においてのみ、従来工法を置き換えるほどの優位性を発揮いたします。

この傾向は産業構造にも影響を及ぼしております。工作機械大手が積層造形事業の見直しを進める一方で、特定用途に特化した企業は成長を見せております。例えば、データセンター向けの冷却部品やロケット関連部品などにおいて、積層造形の特性を生かした開発投資が拡大しております。今後も積層造形は、医療、宇宙、電子機器などの分野で個別の成功事例を積み重ねながら普及していくとみられます。用途ごとの「点」の成果が、今後の市場拡大の鍵を握ると考えられます。（AMTレポートより）

小物部品加工における段取り集約と4面バイス活用の提案



本製品は、最大3面×4個のワークを1回の段取りで保持・加工できる多面保持型バイスです。

従来必要だった再固定や治具交換を大幅に削減し、段取り時間を最小化します。

高剛性設計により安定したクランプ力と繰り返し精度を確保し、荒加工から仕上げ加工まで対応可能です。

段取り削減はそのまま機械稼働率向上とコスト低減に直結します。

口金幅は3インチ(約76mm)、最大ジョー開き8インチ(約200mm)です。本体重量は約21kgになります。

搭載対象機械は立形マシニングセンタ(付加1軸付)、小型横形マシニングセンタ、小型5軸マシニングセンタです。

段取り時間の短縮と生産性向上に直結する本製品の詳細は、ぜひ当社までお問い合わせください。

機械、工場内設備に関してご質問等がございましたら、お気軽に当社までお問合せください。

株式会社青空機械

TEL : 070-8303-6632

FAX : 050-3588-8241

E-mail : aoki@bsmt.co.jp

青空機械

検索

また、新規の機械購入以外にも既存設備のアフターメンテナンスについてもお手伝いをさせていただきます。

例)今は存在しないメーカーの機械修理、現在の窓口商社を変えたい等々。

まずはお気軽にご連絡ください！！

青木社長の略歴

1986年6月生まれ(満39歳)
 2009年 (株)兼松KGK 入社
 2010年
 ↓ 同社新潟営業所勤務
 2016年
 2016年 日鉄物産マテックス(株) 入社
 2017年
 ↓ 日鉄物産(株) 米国法人出向
 2020年
 2021年 ユアサ商事(株) 入社
 ↓ 同社新潟支店勤務
 2024年
 2024年 (株)青空機械 設立